



平成30年度 実践研修の概要

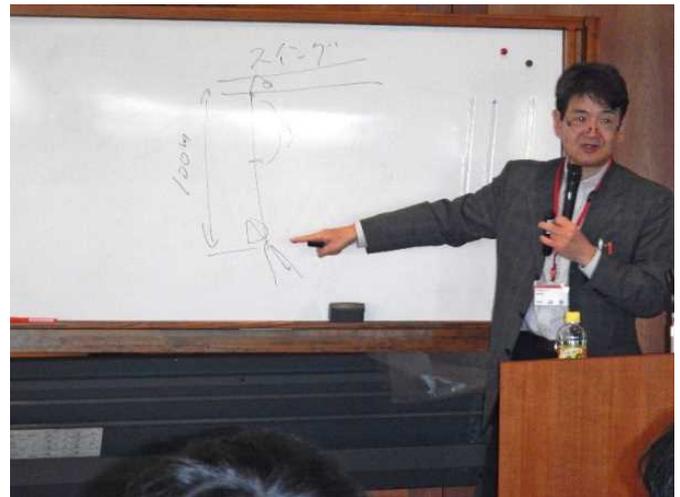
1. 研修日程:平成30年11月6日～11月8日
2. 研修会場:宮崎県木材利用技術センター
(宮崎県都城市)
3. 現地実習:宮崎県小林市雑守国有林
2099ぬ林小班
4. 参加者:17名(内訳) 県職員 8名
林業事業体職員 4名
国有林職員 5名

研修目標

市町村森林整備計画の策定等、市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士等による支援を適切に進めるため、森林法等の改正に対応した地域活動を支援するとともに、森林総合監理士等技術者の技術的水準の向上を図る支援を一体的かつ集中的に推進する。

人工林が主伐期を迎える中で、木材の安定供給や伐採後の再造林にかかる作業の効率化、低コスト化が期待できる一貫作業システムを導入・拡大していくことが重要な課題となっています。低コストで効率的な作業システムの定着やコンテナ苗優良品種等の導入、伐採と造林の一括発注等について演習及び現地検討を行い、理想と現実及び対応策等を情報共有し、各地での事業への導入・具現化に向けた指導・助言ができる人材を育成します。

講師の鹿児島大学岡先生による「一貫作業システムの基本的な考え方」の講義



講師の木脇林業(株)山下社長による「伐採、造林の行動規範」の講義



主伐再造林を進めていく上で、地域の関係者に対して伐採・搬出から造林に係るコスト低減や採算性等に関する技術的な支援が課題であり、この解決に対応できる技術者の育成を目指しています。

都城支署管内
の誘導伐実行
箇所において
一貫作業シス
テムの現地を
確認



班別に作業計
画と造林コス
トを検討

